

ご自由にお持ち下さい

きらめき



独立行政法人 地域医療機能推進機構  
福岡ゆたか中央病院 広報誌

ハーベスト  
Harvest

2026  
新年号  
vol.9



INDEX

病院長の挨拶	1
膠原病について	2
トピックス	3
地域医療連携室のご紹介	6
医師外来診療担当表	7

# 院長挨拶

院長

まつもと たかひろ  
松本 高宏



新たな年を迎え皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

大きな気候変動や自然災害、世界各地での紛争が続いていますが、本年は明るく穏やかな一年であることを願っています。

一方、医療を取り巻く環境は、ご承知のように厳しい状況が続いています。当院も例外ではありません。その原因としては、やはり地域の人口減少です。少子高齢化は日本中で続いています。当地域では総人口だけでなく、5年後には65歳以上の高齢者人口も減少に転じることが想定されています。それにつれて、地域の医療・介護のニーズも大きく変化していくことが考えられます。それ以外の原因としては、地方病院の常勤医師の減少が挙げられます。臨床研修制度の改変や働き方改革などによる医師の都市部への集中、診療科間での偏在が続いていて、地域医療を支える若手～中堅医師が不足しています。対応できる病気の範囲がますます限定されて、近隣の大規模基幹病院に頼らざるを得ない状況がさらに強まっています。このような状況に対応するために、当院の立ち位置もこれまで通りではなく大きく変わらないといけないと思います。紹介患者さんを積極的に受け入れていくのはもちろん続けていきます。それ以上に、地域で求められているニーズを細かに拾い上げて対応していきます。また、病床の転換や削減など病院機能の大きな見直しも必要になります。新たな発展の一年になるように職員一丸となって取組みを進めていきます。

地域に密接した病院として皆さんに選んでいただけるように、2025年11月に日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審しました。当院としては15年ぶりの再々受審となりました。皆で一致団結してチェック項目を確認し、見直すべきところは見直してより良い病院になるように努めました。地域の人たちにとってさらに利用したくなる病院になっていると思います。これからも、この地域で必要とされる安心・安全な医療を実践するとともに、さらなる医療の質の向上に努めて参ります。また、健やかな生活が継続できる地域づくりに貢献していきたいと思います。今後とも職員一同、皆様のご意見を拝聴してこの地域全体に少しでもお役に立ちたいと考えています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

特集

こうげんびょう

教えて中塚先生!

# 膠原病について

膠原病(こうげんびょう)という言葉を目にしたことはありますでしょうか。

「怖い病気」「治りにくい病気」「よく分からない病気」といった印象を持たれる方も少なくありません。今回は、膠原病の歴史や診断、治療、日常生活での注意点について、分かりやすくご紹介します。

「膠原病」という名称は1940年代、アメリカの病理学者クレンペラーが提唱しました。当時、原因不明で全身に炎症を起こす病気がいくつか知られており、それらの病気では体の結合組織(コラーゲンを多く含む部分)に炎症がみられることが共通していたため、「膠原(コラーゲン)に関連する病気」と名付けられました。

当初は関節リウマチ(RA)、全身性エリテマトーデス(SLE)、全身性強皮症(SSc)、多発性筋炎/皮膚筋炎(PMy/DMy)、結節性多発動脈炎(PN)などが含まれていましたが、現在ではコラーゲンそのものの病気ではなく、免疫の異常によって起こる病気のグループとして理解されるようになり、ベーチェット病、混合性結合組織病(MCTD)、シェーグレン症候群、血管炎症候群など多くの疾患が含まれるようになりました。

症状は病気によって異なりますが、関節痛、発疹、筋力低下、口や目の乾燥、発熱、倦怠感など、全身に及ぶことが特徴です。

診断は、一つの検査だけで決まるものではありません。症状の経過、血液検査(自己抗体や炎症反応)、画像検査、組織検査などを組み合わせ、総合的に判断します。症状が多様で他の病気と似ていることや、複数の病気が重なることもあるため、専門的な診断が必要です。

治療の目的は、炎症を抑え、臓器の障害を防ぎ、生活の質を保つことです。病気の種類や重症度に応じて、国際的なガイドラインに沿ってステロイド(副腎皮質ホルモン)、免疫抑制薬、生物学的製剤やJAK阻害薬などを組み合わせて使用します。特にステロイドは、できる限り少ない量で、短期間の使用にとどめられるよう工夫されています。治療は長期にわたることが多く、定期的な通院と検査が欠かせません。多くの疾患が指定難病に含まれ、医療費助成を受けられる場合がありますので、主治医にご相談ください。

日常生活では、禁煙、感染対策、紫外線対策、規則正しい生活リズム、心身の安静、適切な食事と適度な運動を心がけ、体調の変化を感じた際には早めに相談することが大切です。

膠原病はかつて「難治の病」とされていましたが、現在は治療法が大きく進歩し、多くの方が日常生活を続けながら治療を受けられ、妊娠・出産をされる方も増えています。民間療法に頼らず、不安なことがあれば遠慮なく主治医にご相談ください。



教えてくれたのは、こちらの先生です♪

内科副院長

中塚 敬輔 先生

診察日:毎週 月・火・水・金曜日(完全予約制)  
(新患)

ありがとうございました。

トピックス  
01

## 病院機能評価を 受審しました



令和7年11月18日、19日に病院機能評価受審を終えました。15年ぶりの受審であり前回のことを知っているスタッフもほとんどいませんでしたが、あるべき姿に近づけるよう準備を進めました。病院内の様々な職種が連携して、ルールや手順が安全かつ確実に実施されているのか点検し、必要に応じて改善に向けた活動を展開しました。模擬練習は、全職員で協力して何度も取り組み、スタッフの底力を実感しました。職員が一致団結し病院機能評価を受審し、課題が明らかになったことが大きな成果です。今後は、患者さん中心の医療を目指し地域の皆様の期待に応えられるよう、課題の解決に向け、スタッフ全員で力を合わせて取り組んでいきたいと思えます。

看護部 久保 由美子



トピックス  
02

## 第10回JCHO地域医療総合 医学会に参加して

11月28、29日に横浜市で開催された第10回JCHO学会に参加させていただきました。

テーマは「次世代地域医療の創造～我らが、明日から～」です。関根会長は時代のニーズにあった医療を常に意識しながら実践していかなければならない。そのために創造が求められるとおっしゃいました。

シンポジウムの一つ、「病院DXで築くレジリエント・ヘルスケア」～地域医療を守るための創造～では、AIを活用しつつ、高額な費用をかけるのではなく、その病院が使用したい機能をチームで考え、無料で使用可能なものやエクセルを駆使して作成する取り組みが紹介されていました。当院でも応用可能な部分があると感じました。

発表は、看護部より4題、栄養管理室より1題の合計5題で、日常の業務では知り得ない取り組みを知ることができました。私は「管理栄養士が特定保健指導に介入した取り組みとその効果」で発表をさせていただきましたが、他部署と連携したことで成しえたことだと実感いたしました。学会では、他病院や他部門の発表、シンポジウムなど聴くことができ、多くの良い意味での刺激となりました。今後の業務に活かしていきたいと考えます。

栄養管理室 野口 直子



## 「楽しくみんなで頑張ろう！」会を開催!!

2025年12月16日、JCHO九州地区理事である諫早総合病院院長の長郷国彦先生主催の「楽しくみんなで頑張ろう！」会を開催しました。

当院も御多分に漏れず、赤字経営が続き、職員の気持ちも沈みがちで、先行きへの不安が募っていた時期に加え、病院機能評価受審や厚生局適時調査もあり病院全体に疲労が溜まっていたそんな中、まさに“スーパードクター”長郷先生が登場してくださいました。先生は近隣の医療機関や院内の各部署を精力的に訪問され、叱咤激励だけでなく、現場に寄り添った的確なアドバイスを沢山くださいました。さらに、連日の宿直や急患対応までこなされ、その働きぶりは入院患者数の増加にもつながりました。

そして迎えたイベント当日。ハードスケジュールの後とは思えないほど、先生は明るくエネルギーあふれる姿で会場を盛り上げてくださり、豪華副賞付きの福引き大会も大いに賑わいました。久しぶりに職員の笑顔があふれ、会場全体が温かい空気に包まれました。

その後、少しずつ入院患者数も増え、黒字化の兆しも見え始めています。

これからも「明るい笑顔を忘れず、お互いを思いやり、声かけや手助けを大切に」を合言葉に、職員一同、前向きに頑張っていきます！



# 地域医療連携室のご紹介

「地域医療連携室」は、地域と病院の架け橋になるという理念のもと、「医療・介護」にかかわる機関と連携し、切れ目のない支援体制を構築しております。

主な役割は、医療機関等からの受診・入院の受け入れ調整や患者さんやご家族の希望を伺いながらの退院支援及び、地域の資源やニーズに関する情報収集のための訪問活動を行っております。また医療機関や介護関連施設向けの研修会や「地域連携の集い」「地域協議会」の企画・運営を行っております。

患者サポート窓口も地域医療連携室内にございます。医療ソーシャルワーカーや看護師がお困りごとや心配事の相談に応じます。ご相談内容は、秘密を厳守します。

地域医療連携室は、患者さん・ご家族・地域の皆さまの相談窓口として、これからも「つながる医療」を大切に、どんなときも迅速対応で安心できる地域づくりに貢献してまいります。

## 地域医療連携室 スタッフ紹介

室長 中塚 敬輔(内科副院長)

看護師6名、医療ソーシャルワーカー3名、事務1名

## お問い合わせ先

平日 8:15 ~ 17:00

TEL:0949-26-2311(代表) / FAX:0949-26-2372(直通)

内線:1180、1181



## 初めて受診される患者さまへ

当院に初めて受診される患者さまは以下の医師が診察いたします。(緊急の場合を除く)  
 次回より専門医が診察しますのでご了承ください。

**月** 安藤・村田 **火** 辻川 **水** 重藤・今田/安藤

**木** 今田・山口 **金** 古森・注2

午後は救急当番医が診察します。

## ご予約の方へ ☎0949-26-2311(代表)

予約のお電話は、月曜日から金曜日の**13:00~17:00**で受け付けております。明日の予約および明日への予約変更は、**前日14:00まで**となっています。

※午前中および土・日・祝祭日の電話予約は受け付けておりませんので、ご了承ください。

※初診の方、前回の診察から3か月以上経った方はご予約できませんので、ご了承ください。

## 外来診療担当表

**【ご案内】初診の方は、すべて初診担当医が対応致します**

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科初診担当		(呼吸器) 安藤 裕之 (消化器) 村田 征喜	(内科) 辻川 浩明	(循環器) 重藤 由行 (呼吸器) 今田 悠介 安藤 裕之 ※注1	(内科) 山口 健也 (呼吸器) 今田 悠介	(呼吸器) 古森 雅志 (総合診療) ※注2
内科	高血圧 心臓病	松本 高宏 循環器の新患 重藤 由行 再来のみ	松本 高宏 再来のみ		松本 高宏 再来のみ 重藤 由行 再来のみ 宮田 健二 予約のみ	重藤 由行 再来のみ
	胃・腸	田畑 寿彦 予約のみ	大野 眞由美 第2・4午後予約のみ	村田 征喜 再来のみ		村田 征喜 ※第1.3のみ
	リウマチ 膠原病	中塚 敬輔 再来のみ	中塚 敬輔 膠原病外来予約のみ ※注3	中塚 敬輔 再来のみ 轟 泰幸 予約のみ	小坂 峻平 予約のみ	中塚 敬輔 第2以外再来のみ
	甲状腺・内分泌					齋藤 桃 再来のみ
	糖尿病			肥川 健司 予約のみ		緒方 久修 午後予約のみ
	もの忘れ外来				尾崎 雄一 予約のみ	
	呼吸器内科	今田 悠介 再来のみ	古森 雅志 再来のみ	古森 雅志 再来のみ		安藤 裕之 再来のみ
外科	肝胆膵・消化器・肛門 乳腺・甲状腺・呼吸器	吉田 真樹	松成 康生 河野 康平	竜口 崇明	吉田 真樹 河野 康平	松成 康生 竜口 崇明
	乳腺外科 (午後)		松本 奏吉 予約のみ			
	呼吸器外科				生田 安司	
皮膚科	佐々木 奈津子				上妻 美緒	
整形外科	友弘 慎一	友弘 慎一	友弘 慎一	池邊 結	友弘 慎一	
眼科	藤川 堯之	藤川 堯之		藤川 堯之	藤川 堯之	

※注1 第1、3、5 今田医師／第2、4 安藤医師

※注2 金曜日の午前中(初診担当) 第1、2:新谷医師 第3、4:北野医師 第5:高橋医師

※注3 令和7年7月1日より 膠原病外来 完全予約制／14:00~線維筋痛症外来 完全予約制(1名)

外来診療受付時間 8:30~11:30(皮膚科は13:30~16:00)／眼科初診は10:00まで

令和8年1月1日現在